



管理部 部長
寺澤佳美 氏

社長 伊藤浩一 氏

現在、企業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）は極めて重要なテーマとなっています。特に、働き方改革に重点を置かれている企業には影響が非常に大きい事が考えられます。今回は、本年度、デジタルシティ松本推進認定企業選考において二つ星のまつもと Re-Design Hub 特別賞を受賞された、丸善土木株式会社様にDX推進による働き方改革についてお聞きしました。

1. 建設業界がDXや働き方改革に取り組む必要性について教えてください。

伊藤社長 建設業は肉体労働の印象がありますが、実際には技術と資格が必要であり、DXや働き方改革に注力しています。業界全体が変革に取り組む中、弊社も過去のイメージを払拭し、積極的にDXや働き方改革に着手しています。DXへの興味がありながらも、具体的な導入方法や技術に抵抗がありましたが、寺澤の提案で社内への取り組みが始まりました。若手社員は柔軟に受け入れましたが、個人の特性による差異もあります。しかし、DXと働き方改革は必要不可欠であり、担い手の高齢化や若手不足に対処する手段であります。

2. 建設業界のデジタル化はどのような状況でしょうか。

伊藤社長 建設業界は電子入札や電子契約、ICT施工の導入など、デジタル化が進んでいます。DXの導入はコストがかかる面があり、計画的な取り組みが必要です。業界全体が変革に向けて進んでいる状況です。

3. デジタルシティ松本推進認定企業の取得に取り組んだ訳を教えてください。

伊藤社長 寺澤がFacebookで知りDXへの取り組みの評価があることから認定取得に挑戦することにしました。SDGsや健康経営にも取り組み、各種認証を取得し自社の継続性を確保し、社員のモチベーションを維持する手段となっています。将来の目標に向けて計画的な取り組みが不可欠です。

4. 具体的な事例を教えてください。

寺澤部長 DXを進める際、情報共有を重要な柱として考え、段階的な導入をスタートしました。社内情報共有の第一歩目として導入が容易なLINEを選択し、LINEWorksに移行しました。さらに社内コミュニケーションが進みグループウェアのdesknet'sを最終的に導入し業務の効率化が進みました。社給のパソコン・スマートフォンの利用が増え勤怠管理ソフトを導入しました。

5. DX人材。そういった人材が社内にいるかどうかが重要ですね。

伊藤社長 弊社は私が呟いたことを真に受けて取り組んでくれる、寺澤の存在で入りやすかったです。寺澤のようなDX人材を育てたいと思います。変化を追いかけていくことも重要なポイントです。

寺澤部長 私は社長に、「パソコンは起動すれば働いてくれて、ソフトは問題を解決してくれます」とお話ししました。

伊藤社長 そのために環境を提供することが企業の魅力に繋がりますね。

6. アプリケーションを導入し効果的な活用をしていますか。

寺澤部長 勤怠管理ソフトの利用により、打刻漏れ等のミスがなくなりました。desknet'sの導入により各自のスケジュールやワークフローを利用した申請関係はリアルタイムで確認できるようになり業務効率の向上が期待できます。

伊藤社長 印鑑による承認はなくなりつつありますが、予算書など一部の書類は紙で回しています。決裁に関しては流れを決めていても、承認者が中身を精査・確認し問題が発生した場合の対応が、クリックだけでは難しい側面もあります。その点についてもワークフローを活用して改善を検討中です。



7. desknet'sをスケジュール管理や社内連絡に利用している訳ですね。

寺澤部長 クラウドFAXの導入、外部からの通知等はスキャンし、デジタルで一括管理しています。県や市の除雪スケジュールもdesknet'sで管理されていて、当番制での情報共有が行われています。

伊藤社長 重機の運転は降雪回数が少なく出勤機会がないため若者の育成や経験積みが難しい状況にあります。デジタルとGPSを利用した情報提供により除雪作業も変わりつつあります。除雪業者の撤退も増えていく可能性があり人手不足が深刻です。

8. 工事は現場の関係ということでしょうか。

伊藤社長 弊社は主に松本市や松本建設事務所の公共工事を元請けで施工しております。各現場に技術者を配置し、直行直帰が一般的です。昔は1人に多くの業務を任せ、残業が増えていましたが、これでは働き方改革になりません。建設業は4月から時間外労働の上限規制が適用されますので、デジタル化が求められ、柔軟な働き方への変革が重要になっています。

9. 現場の安全管理はどのように行っていますか。

寺澤部長 安全管理講習をVRによるAI活用が検討されています。新設工事主流から維持修繕が増え、危険リスクも変わっています。VRで事前に危険な状況を体験し、対策を練ることが重要です。

伊藤社長 現場施工においても、作業手順や技術・技能をVR活用して指導するケースもあります。

10. 若手不足が進む中、育成の方法も変わってきているようですね。

寺澤部長 現場の画像や映像を残してデータとし蓄積すれば、他の人も見ながら学べる事が出来ます。不安な場合は映像を見ながら作業することができる時代になっています。

伊藤社長 DXを進めて一番感じる成果は、工事データ（財産）が確実に蓄積でき、情報共有ができる。デジタル化は本当に必要とされていると感じます。

11. 「まつもと Re-Design Hub 特別賞」を受賞され、DX先進企業として地域のDXを検討中の企業さんに何かアドバイスがあればお聞きしたいです。

寺澤部長 DXには興味があるが、一步が踏み出せない状況だと思います。DXにはいろんなコンテンツがありますので、幅広く興味を持ちチャレンジして、自社にマッチした物を見つければ少しづつ進めていけば良いと思います。

伊藤社長 『為せば成る、為さねば成らぬ、何事も、成らぬは人の為さぬなりけり（上杉鷹山）』まずはチャレンジする事から進めてみてください。



丸善土木株式会社

所在地：松本市南原2丁目20-4

代表者：代表取締役 伊藤浩一

事業内容：土木一式工事・石工工事・鋼構造物工事・舗装工事
しゅんせつ工事・造園工事・水道施設工事

取り組み：エコアクション21・SDGs・健康経営優良法人・
デジタルシティ松本推進企業・ecoオフィスまつもと・
残さず食べよう！30・10運動

2023年10月2日 松本市長より

デジタルシティ松本推進認定企業 二つ星の認定

【DX推進に関するお問い合わせ】 松本商工会議所DX推進部 TEL：0263-32-5350 Mail：dx@mcci.or.jp